

岡山市民版

寄稿 中村良平岡山大学大学院教授

なかむら・りょうへい



京都大工学部卒、筑波大学大学院社会工学研究科博士課程修了。1994年から岡山大学経済学部教授。2006年から岡山大学大学院社会文化科学研究科教授。10年から同学部副学部長。専門は地域公共政策。高松市出身。

米国・ポートランド市は、人口約70万人、都市圏では200万人近い、全米でも転入者が後を絶たない住みやすいまちとしてトップクラスに位置するオレゴン州の最大の都市である。都市計画や交通政策を学ぶ者のみならず、実践する者にとっても、ポートランドの都市政策やまちづくりは、とても参考になる生きた教科書である。

このまちに昨年の11月下旬と今年の3月末に、岡山大学機能強化戦略経費による「持続可能な地方都市形成の



ポートランドに見るまちづくりと産業振興 上

国際比較研究」プロジェクトの一端で、大学間の交流促進も兼ねて同僚3人と2度訪れた。

需要増やす努力

ポートランドはバスや路面電車(ライトレール)などの公共交通の充実したまちとして知られているが、かつて1970年代において、路面電車の

公共交通充実が理念

整備や延伸を計画した。それであれば何とか公共



公共空間の創出である。代表的なのは「パイオニア・コートハウス・スクエア」と呼ばれる旧裁判所前に広がる空間で、その中心部はパフォーミング・アートや露天商でにぎわいをみせている。これにあ

市民がサポート

確かに米国の他都市と比べて、ダウンタウンの車の量は明らかに少ない。コンパクトなまちと公共交通機関の充実、住む人だけでなく訪れる人にとっても利便性と快適性を高める。

路面電車を軸に街づくりを進めた米・ポートランド。大学構内にも路線が通る

また、周辺に商業施設が張りついた結果、人通りは絶えない。この公共空間の両側を路面電車が走る。

大学内に路線
ダウンタウンの中では

大学内に路線

運賃を無料とし、運行時間の間隔を短くした。さらに市街地再開発による

路面電車は、市内を中心に走るストリートカーと呼ばれる電車と、郊外に出ると高速鉄道に変わるライトレールの2種類があり、前者については、なんと大学のキャンパス内を路線が走り、停留所もある。

岡山市民版

寄稿 中村良平岡山大学大学院教授

米国・ポートランドの都市政策のもう一つの特徴は、都市成長の境界を定めることによる都市成長管理政策の実施である。これはオレゴン州の土地利用政策と連動しつつ、これまで人口増加による都市のスプロール開発を抑制してきたのである。

都市成長境界線を決めるのはポートランド市だけの意思決定ではない。周辺の23自治体と構成されるMETRO(メトロ)と呼ばれる地域政府によって決定される。METROは、選挙によって議員が選ばれ、徴税権や起債権を持つ。日本には広域連合はあってもこうした広域政府は存在しない。米国でもこ

ポートランドに見るまちづくりと産業振興 下

ただだと聞いている。

高度な土地利用

ここでも住民参加のまちづくりが貫かれてい

る。1994年に策定された2040年の都市圏資産価値を高めるべく投資を行う。何年か後に資産価値が上がり、固定資産税の増収により結果的にプロジェクトをファイナンスする。市街地の空

公開することで住民が豊かな情報に基づく選択を可能とした。そのような中、かつて計画されたポートランドを横断するバイパス道路計画は中止され、路面電車に変わった。

パートナー探し

人と環境に優しい都市

無秩序な開発抑制

都市の無秩序な外延的拡大を抑制する成長管理は、地域振興で「環境の政策の一方で、ダウンタ

ポートランドの中心市街地にある広場。郊外への都市拡大を抑制する一方で、中心部の魅力を高めた



戦略である。いまは環境技術・産業を基軸とした「グリーン・テクノロジー」を掲げている。

再生可能エネルギーの技術など環境技術の企業における移出産業部門の成長と雇用創出を目指す、積極的に海外の都市に赴きパートナーを探し出す。ポートランドの企業の製品の移出先、ポートランドの環境技術を生かせる企業の連携、上流と下流の産業連関を域外に求めるという姿勢だ。

岡山の企業も重要なパートナーシップを築けるかもしれない。

いずれも岡山市のまちづくりや都市政策、産業振興策に大いに参考となる。

地元大学と連携

もう一つ、特筆すべきは、地元のポートランド

ポートランドは岡山市と同様、地方中核都市だ。

バラ園をはじめとする庭園があり庭園都市としての名声もある。都市政策面、産業振興面、そして教育や学術面における産官学での交流を深める価値のある都市であろう。